

JUKI

COMPUTER SEWING MACHINE

The Misin

取扱説明書 (2)

ぬい方のガイド

応用編





使い方のガイド「基本編」をマスターできましたら、この「応用編」で多彩なソーイングをお楽しみください。

も く じ

布地に合った糸と針の選び方……………1	ブラインドステッチ(まつりぬい)……………13・14
いろいろなぬい方のガイド……………2	三点ジグザグぬい(エラスチックステッチ)……………15
直線ぬい……………3	アップリケ(12)……………16
ジグザグぬい……………4	ダーニング(つくろいぬい)……………17
自動ボタン穴カガリ……………5・6	キルティング……………18
・両かん止め穴カガリ	パッチワーク……………19
・ハトメ穴カガリ	ピンタック……………20
・芯入りボタン穴カガリ……………7	上送りアタッチメントのとりつけ方……………21
筒ぬい(フリーアーム)……………7	別売押えのご案内
裁ち目カガリ(縁カガリ)……………8	コンシールファスナーつけ……………23
ファスナーつけ(1)……………9・10	三つ巻きぬい……………24
・脇明きファスナーつけ	ぬい代の重なっている部分のボタン穴カガリ……………25
ファスナーつけ(2)……………11	ひもつけ(コーティング)……………26
・つき合わせファスナーつけ	
伸縮強化ぬい(ストレッチステッチ)……………12	

布地に合った糸と針の選び方

●布地に合った糸と針の選び方

	布 地	ミシン糸	ミシン針
薄地ぬい 	□ーン	絹ミシン糸……………80番~100番	(9番)
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸……………90番・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸……………60~100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸……………80番 化繊ミシン糸……………60~100番	11番
普通地ぬい 	普通不絹・化繊布	綿 糸……………50~80番 化繊ミシン糸……………50・60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊生地	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	11~14番
厚地ぬい 	デニム	綿 糸……………30~50番 化繊ミシン糸……………30~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	ニット針 11~14番
	コート	絹ミシン糸……………50番	11~14番

* ニット針(HA×1KN)は目とびを防ぎ、伸縮性の布地に適します。

直線ぬいから ボタン穴かがり、筒ぬい、模様ぬい、アップリケ、
 ブラインドステッチなど いろいろな ぬい方ができます。

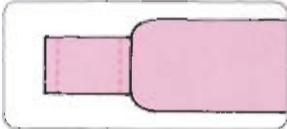
●模様ぬい(基本編15~20ページ)



●ファスナーつけ(9~11ページ)



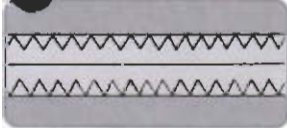
●筒ぬい(フリーアーム)(7ページ)



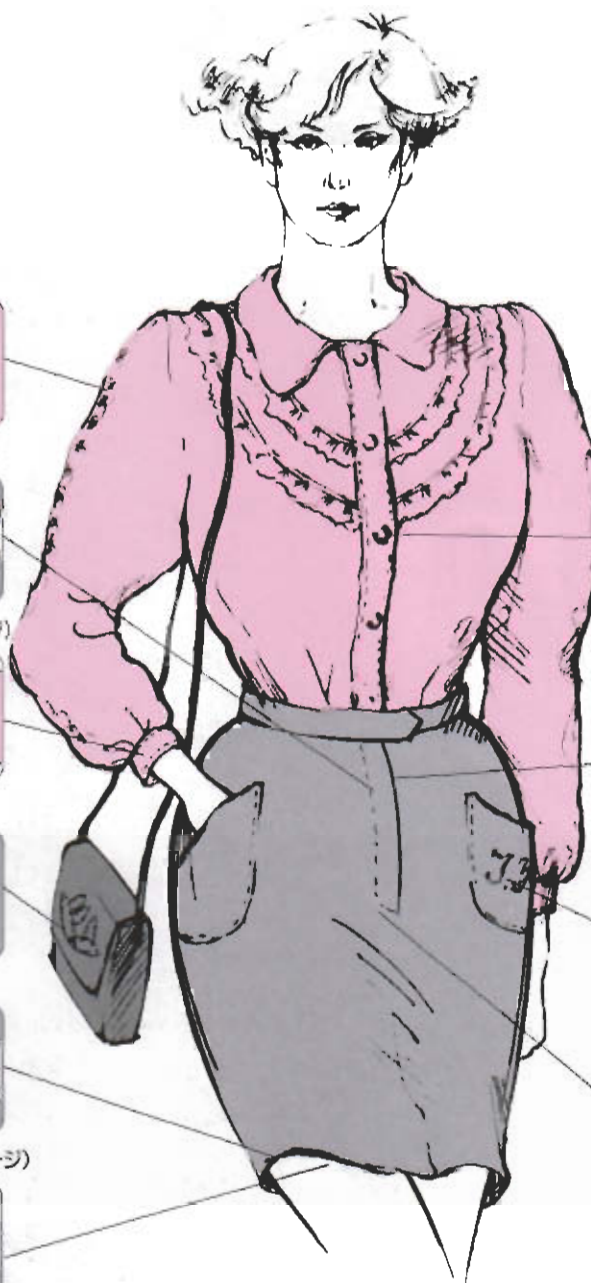
●アップリケ(16ページ)



●目かがり(8ページ)



●ブラインドステッチ(13~14ページ)



●ボタン穴かがり(5~7ページ)



●三点ジグザグぬい(15ページ)

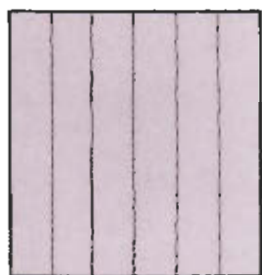


●文字ぬい(基本編17~20ページ)



●伸縮強化ぬい(12ページ)





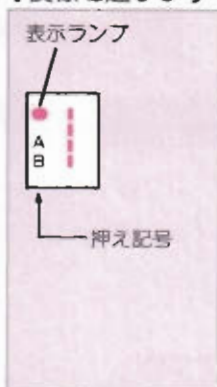
自動のぬい目

直線ぬいはぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。



針の落ちる位置

1 模様を選びます



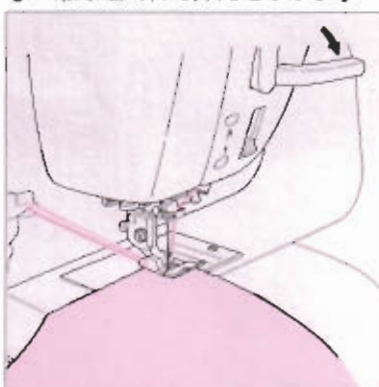
電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

2 押えを確かめます



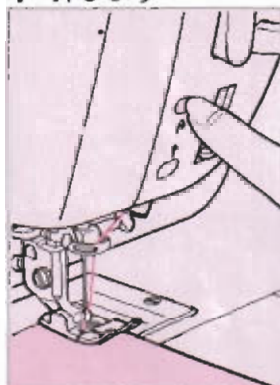
模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

3 返しぬいの分だけ後ろへ布地を入れて押えを上げます



布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えを上げます。

返しぬいスイッチを 4 押します

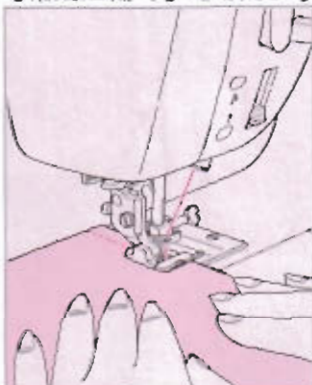


押している間だけ返しぬいをします。

5 スタートさせます

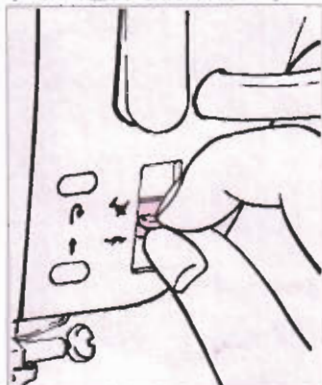


6 布地に軽く手をそえます



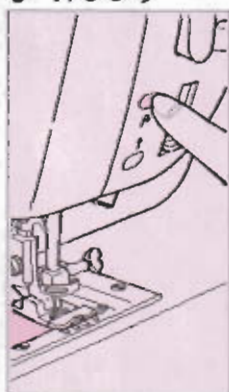
ぬっている間は布地をむりに引っ張らないようにします。

7 ぬい速度を調節します



上にあげるとはやくなります。下に下げるとおそくなります。

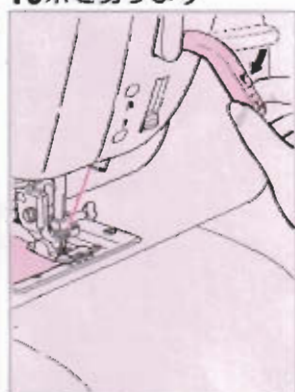
返しぬいスイッチを 8 押します



返しぬいをしない場合はスタート・ストップスイッチを再度押してストップさせます。

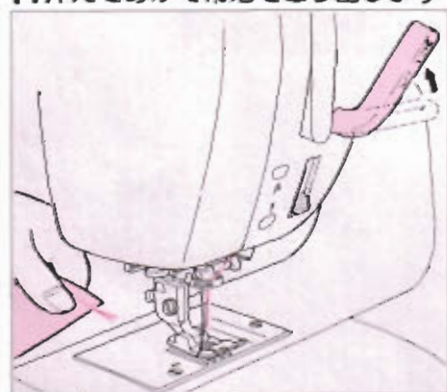
指をはなすとストップします。

10 糸を切ります



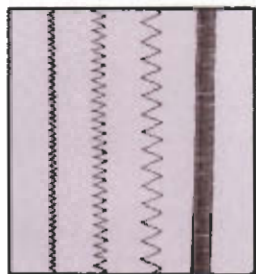
押え上げ・糸切りレバーを針が動くまでいっぱいに上げます。

11 押えをあげて布地をとり出します

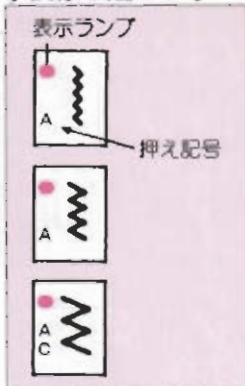


針が完全に止まってから、押え上げ・糸切りレバーを上へ上げます。上・下糸が同時に切れて、布地がとり出せます。

ジグザグぬい



1 模様を選びます



2 押えを確かめます



3

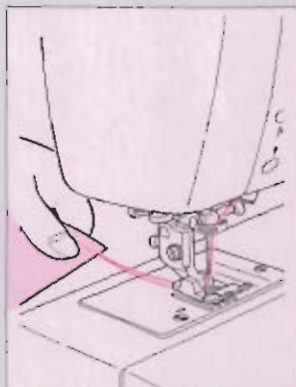
ぬい方は直線ぬいと同じです。直線ぬいを参照しましょう。

3種類のうち、お好みの模様選択キーに表示されている記号ジグザグ模様を選びます。の押えを使います。

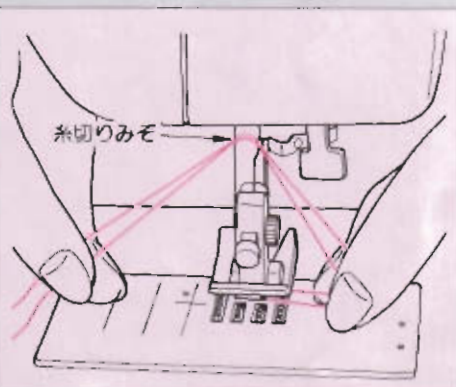
自動糸切りを使わないときの……

糸の切り方と上・下糸の結び方

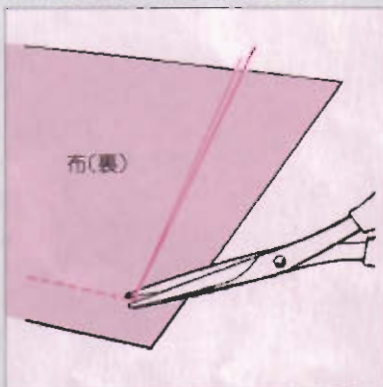
1 布地をとり出します



2 糸切りみぞで糸を切ります

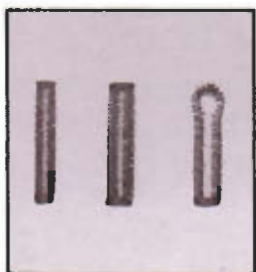


3 布地の裏で糸を結びます



上糸と下糸をそろえて10センチくらい引き出し、押えの裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

布地の裏側に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。



手ぬいでかがるとたいへん
手間のかかるボタン穴かがり
が自動的にできます。

- ニット地(伸縮素材)は布地に芯地、又は不織布をはり、押え調節レバーを「よわい」にしてぬいます。
- 必ず ためしぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。



うすい布地で
Yシャツ、ブラウスなどの
小さいボタンに適します。

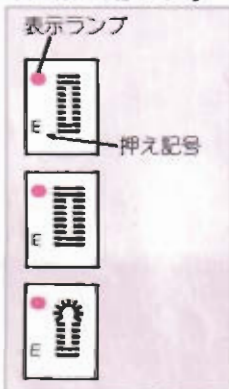


厚い布地で上衣などの
大きいボタンに適します。



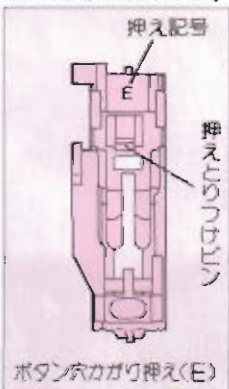
上衣などの
大きいボタンに適します。

1 模様を選びます



3種類のうち、目的に合
ったボタン穴かがりを選
びます。

2 押え(E)をセットします

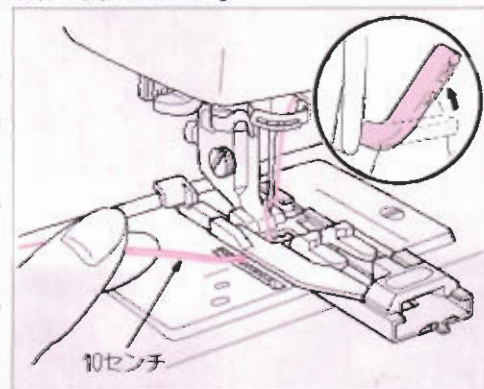


模様選択キーに表示され
ている記号の押えを使
います。
記号のある方を向こう側にしてとりつけます。

3 ぬい速度を決めます

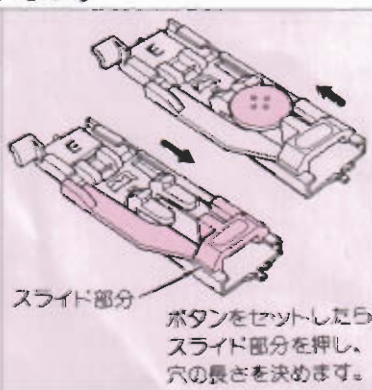
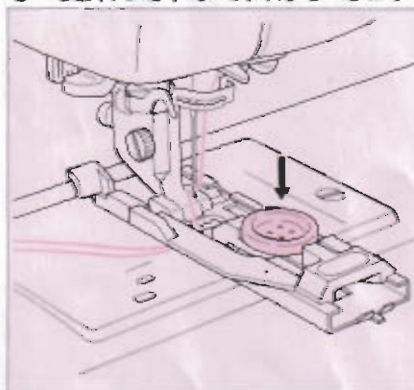


4 糸を横に出します



上糸を押えの下へくぐらせます。

5 一度押えを下げて、ボタンをセットします



ボタンをセットしたら
スライド部分を押し、
穴の長さを決めます。

かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの長径+ボタンの厚みが、かがり穴の長さ
です)。

6 ボタンを はずします



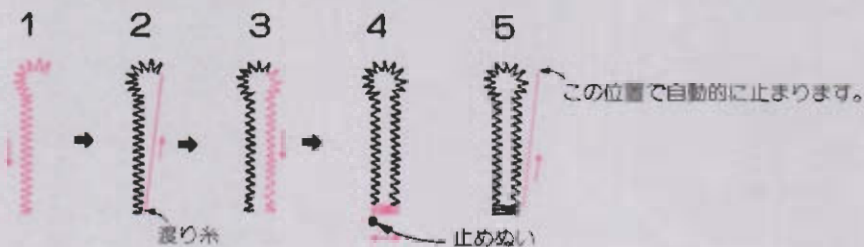
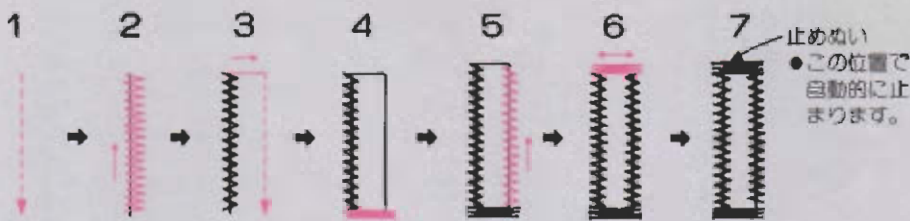
長さが決まりましたら
ボタンをはずします。

7 布地に印を つけます

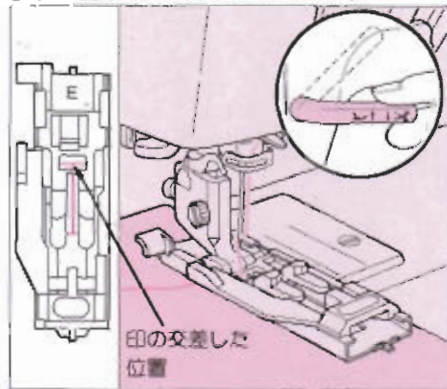


ボタン穴の位置
にチャコで1印
をつけます。

●自動ボタン穴かぎりのぬわれる順序

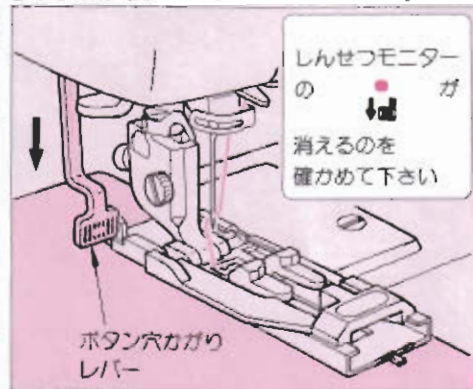


8印に合わせて押えを上げます



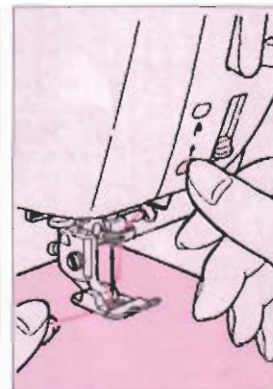
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えを上げます。

9ボタン穴かぎりレバーを上げます



レバーを止まるところまで上げるとしんせつモニターが消えます。

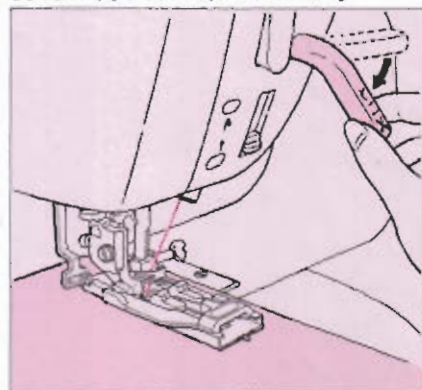
10スタートさせます



スタート・ストップ スイッチを押します。

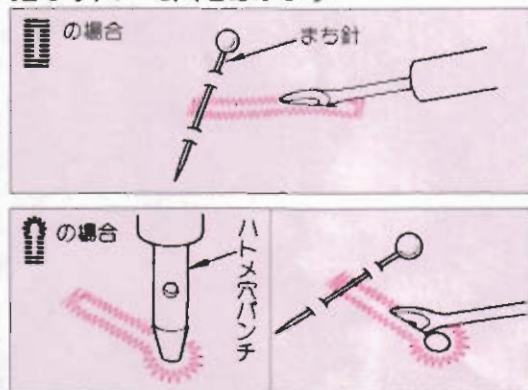
レバーを上げないでスタートさせるとしんせつモニターが点滅しミシンが動きませんのでレバーを上げます。
ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたとき、ミシンを止めて模様選択キーをもう一度押しますと、最初からぬうことができます。

11ぬい終わったら糸を切ります



糸切りレバーを上げて糸を切ります。
*ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて押えを上げてぬうことができます。

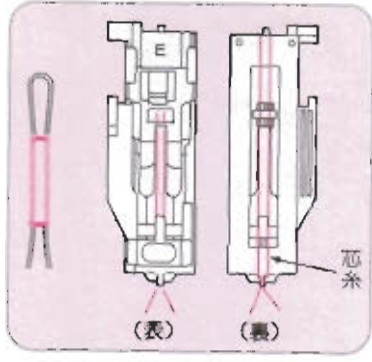
12リッパーで穴をあけます



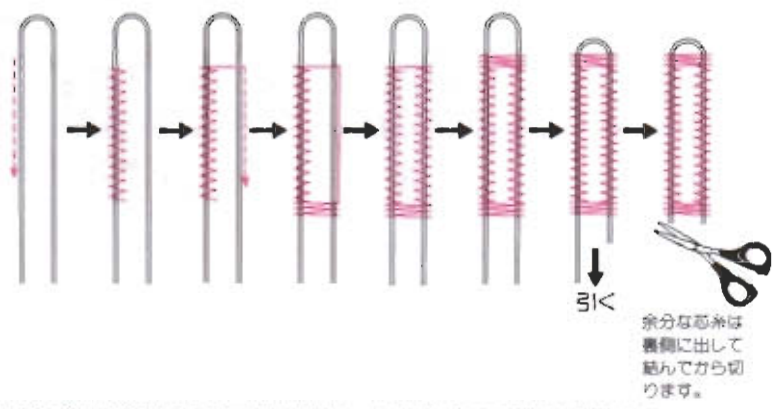
リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます
かん止めの所にまち針をさしますと切りすぎがありません。

厚紙などを下に置いて、ハトメ穴パンチで穴をあけてから、リッパーを使ってください。

●芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方

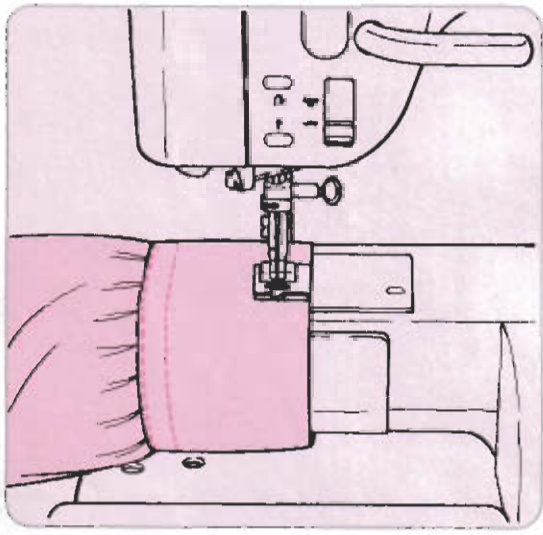


芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。

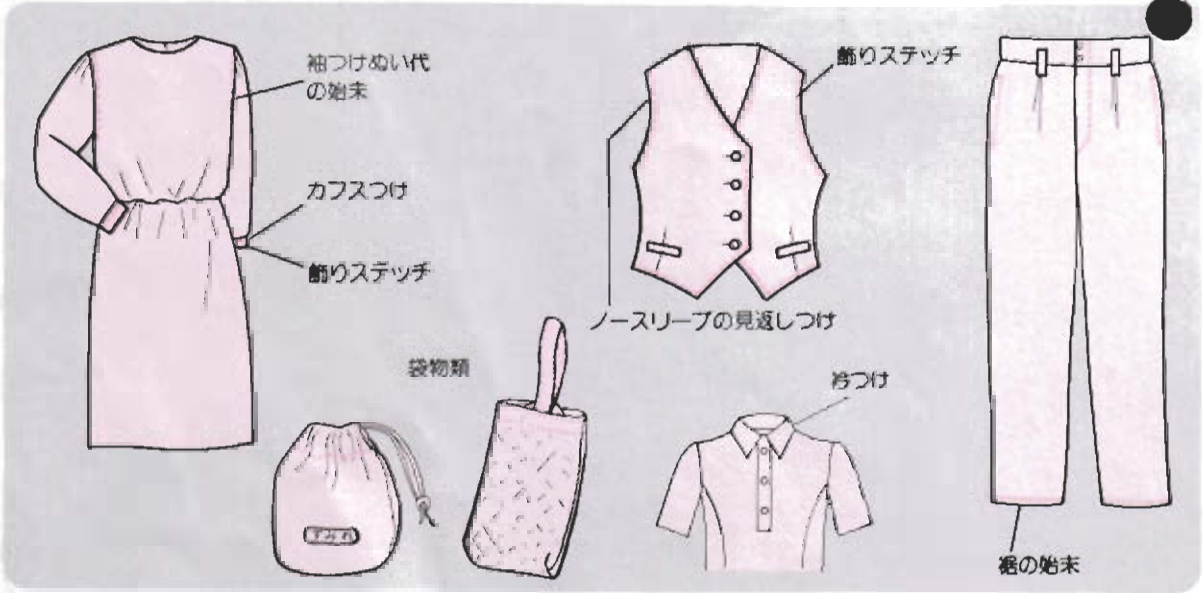


余分な芯糸は裏側に出して結んでから切ります。

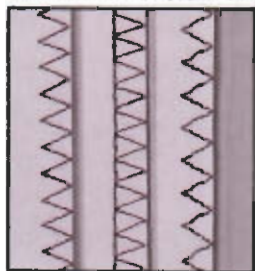
芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをするれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。



カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾など筒型部分をぬうのに大変便利です。

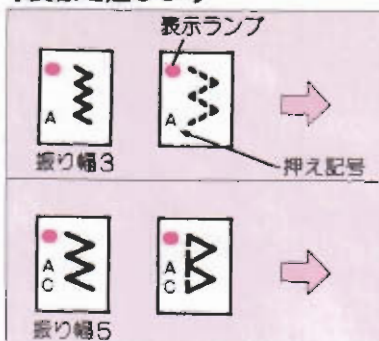


裁ち目かがり(縁かがり)



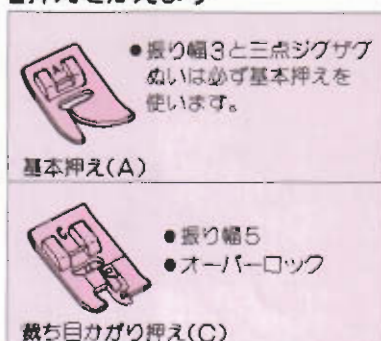
布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

1 模様を選びます

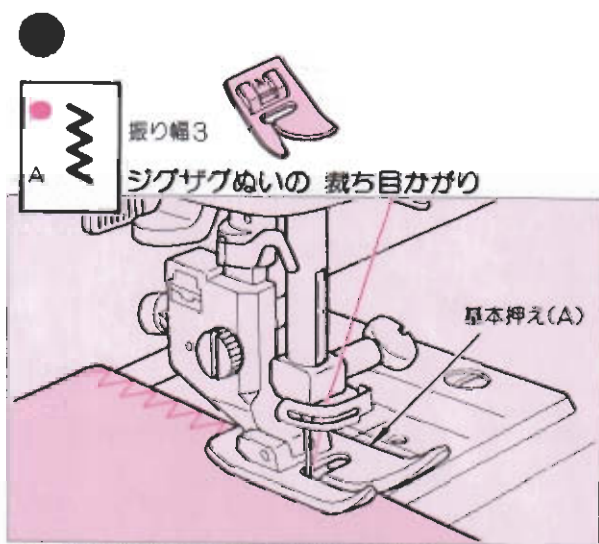


4種類のうち、お好みの模様を選びます。

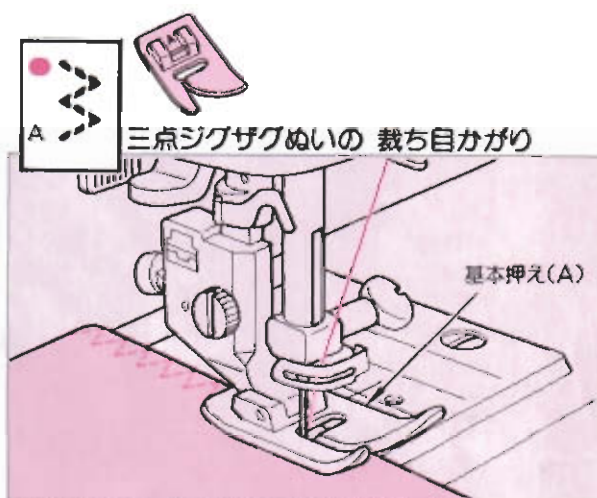
2 押えをかえます



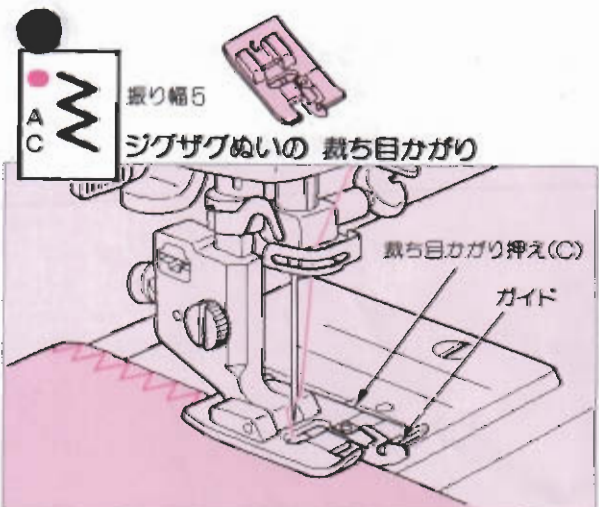
模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。



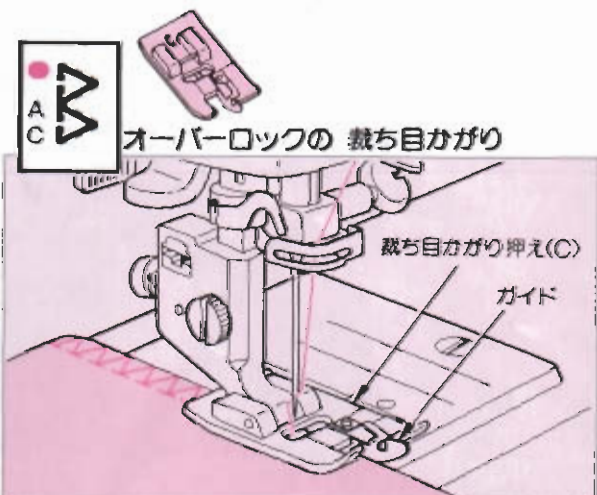
薄地の布で布端が丸まりやすい場合に使います。



ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端より織糸の1~2本内側に針が落ちるようにぬいます。

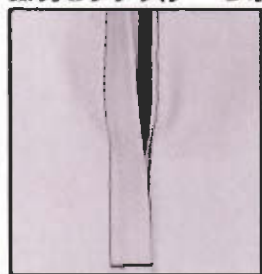


裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。布端を押えのガイドにあて、針が布地の端ずれずれに落ちるように布をセットします。



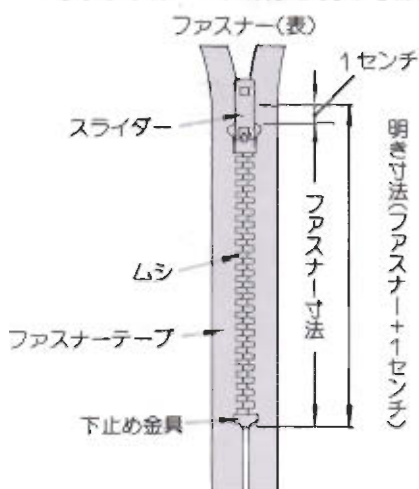
かがりぬいと地ぬいが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布でぬい代をわらなくてよいもののぬい合わせに適します。

脇明きファスナーつけ



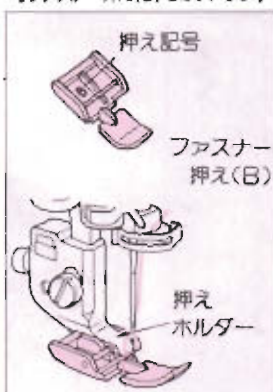
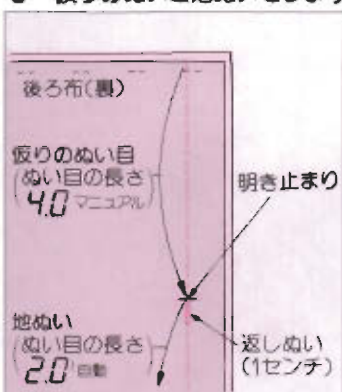
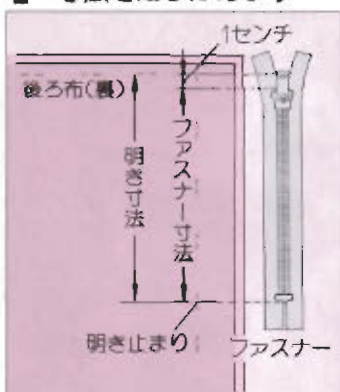
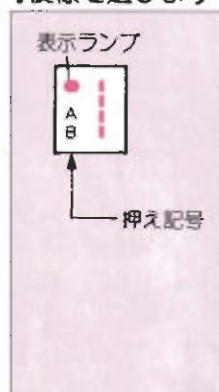
スカート、スラックス、ワンピースなどの明きの始末に用います。

●ファスナーの名称と明き寸法



ファスナー明きの

- 1 模様を選びます 2 寸法をたしかめます 3 仮りのぬいと地ぬいをします 4 ファスナー押え(B)をセットします



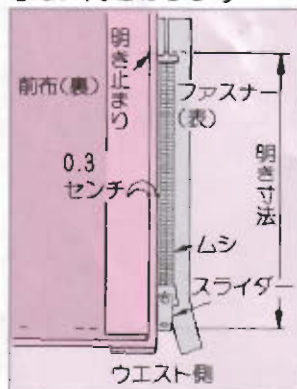
電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

明き寸法はファスナー寸法に1センチプラスした寸法です。

布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きなぬい目(4.0)でぬい、明き止まりからぬい目を「自動」に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。

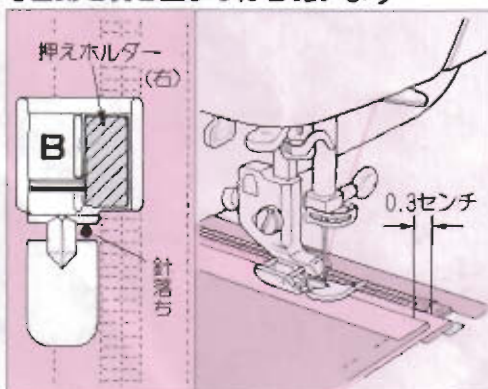
模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

5 ぬい代をわります



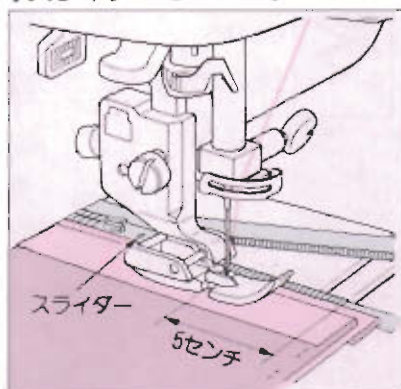
ぬい代をきちんとわり、後ろ布のぬい代を0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

6 左側を明き止まりからぬいます



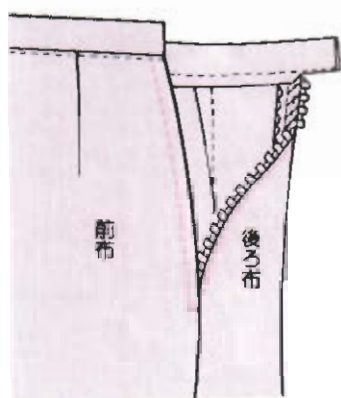
ファスナー押えの右側にセットします。押えの端をムシのきわに当て後ろ側にファスナーの片方をつけて明き止まりからぬいます。

7 スライダーをさげます

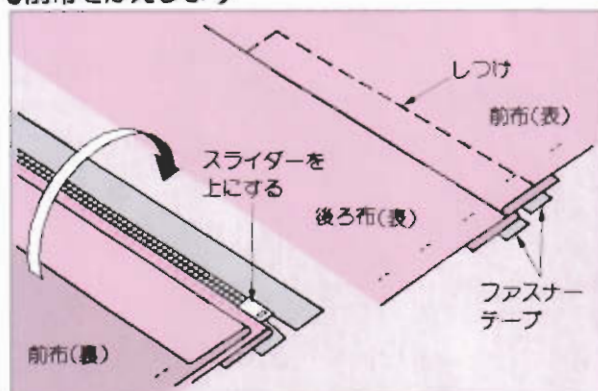


ファスナーの端から5センチ位手前でミシンを止め、押えをあげてスライダーを押えの向こう側にさげ、押えをおろして端までぬい止めます。

●スカートの例

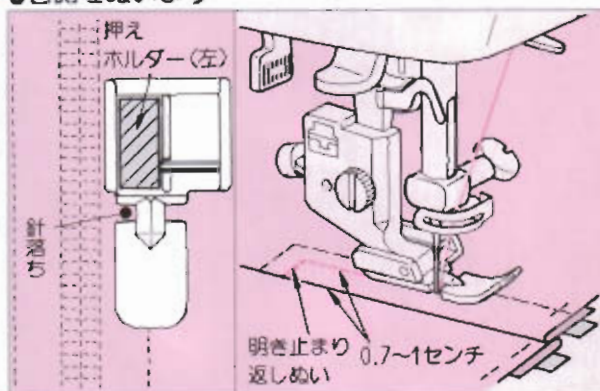


8 前布をかえします



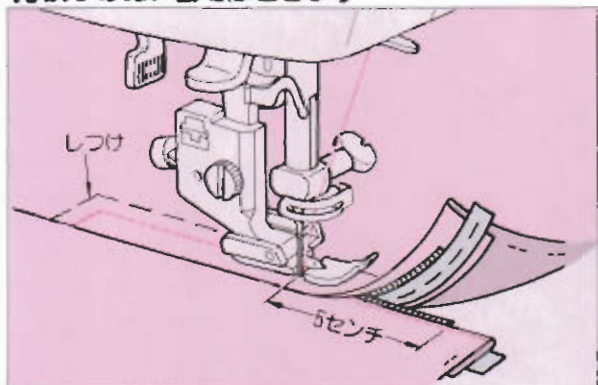
後ろ脇がぬい終わったら、スライダーを上へ引きあげて、つまみの金具を上へ倒し、前布をファスナーの上へかぶせます。かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。

9 右側をぬいます



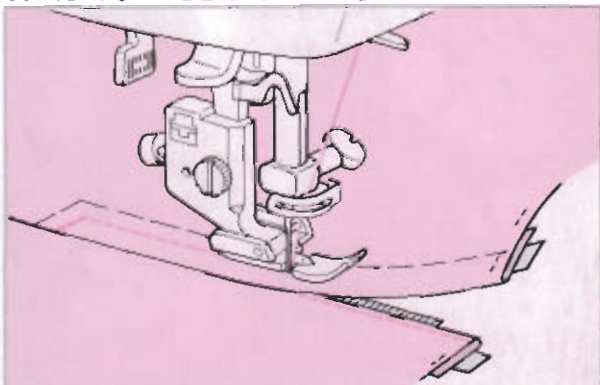
ファスナー押えの左側にセットします。前脇の明き止まりを返しぬいして押えの側をスライダーのきわに当て0.7~1センチのミシンをかけます。

10 仮りのぬい目をほどきます



ファスナーの上端を5センチくらい残したところで図3でぬった仮りのぬい目をほどきます。

11 スライダーをさげてぬいます



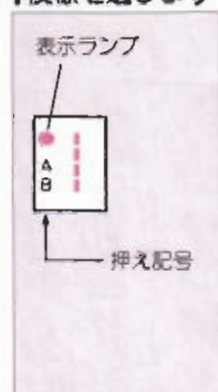
スライダーをさげて、残りの部分をぬいます。

つき合わせファスナーつけ

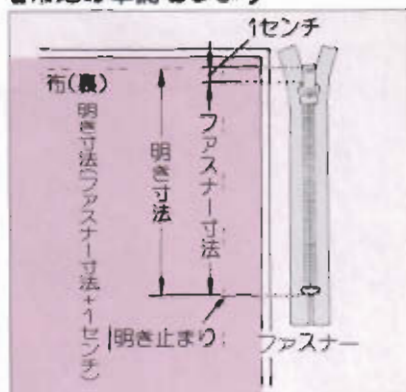


バック、クッション、カバ
ー類に使われるファスナー
つけの方法です。

1 模様を選びます 2 布地の準備をします

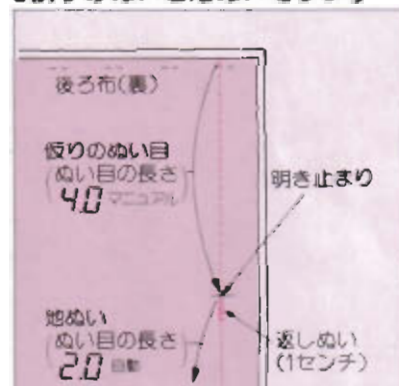


電源を入れると自動的
に直線が選ばれます。



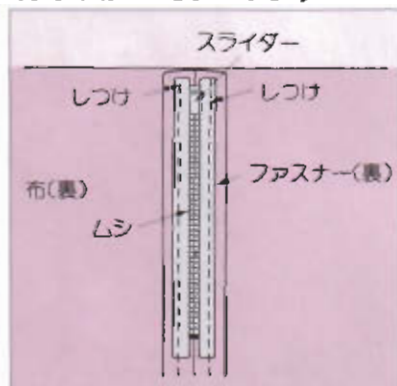
ファスナー明きの寸法をだしがめます。

基本押え(A)を使い
3 仮りのぬいと地ぬいをします



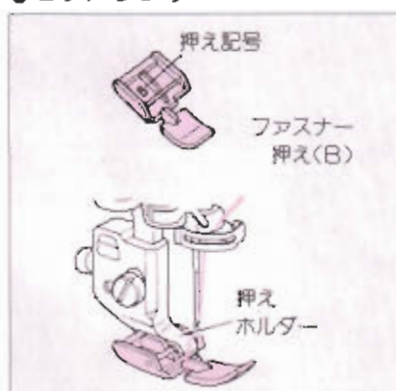
布地を中表に合わせ布端より明き止まり
まで大きなぬい目(40)でぬい、明き止
まりからぬい目を自動に変えて1センチ
返しぬいをし、所定の位置までぬいます。

4 ファスナーをしつけます



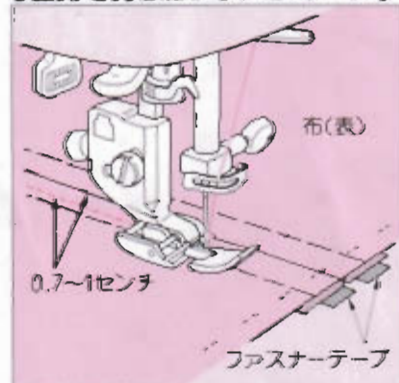
ぬい代をきちんとわり、ぬい目線とファ
スナーのムシの中心を突き合わせ、表までし
つけで止めつけます。ファスナーのスライ
ダーは上に倒します。

ファスナー押え(B)を
5 セットします

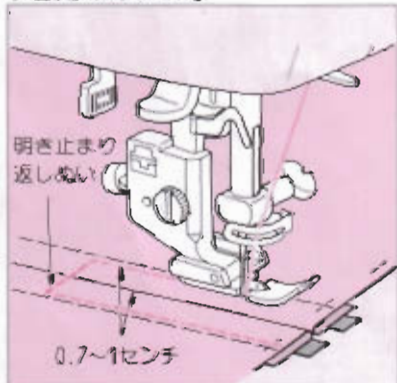


模様選択キーに表示されている記号の
押えを使います。

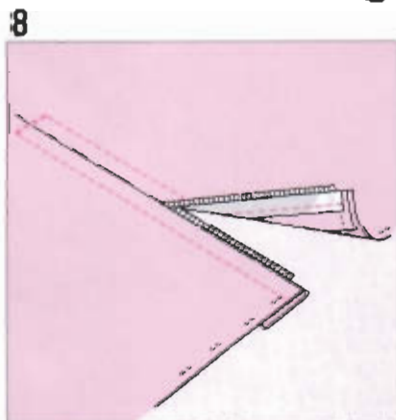
6 左側を明き止まりからぬいます 7 右側をぬいます



ぬい目から0.7~1センチはなして、明き止
まりより上に向かってミシンをかけます。

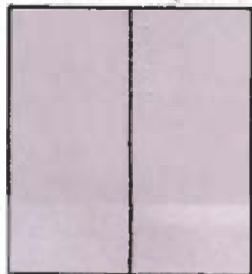


明き止まりを返しぬいで丈夫にぬい止め
もう一方も0.7~1センチはなしてミシンを
かけます。



しつけと図3でぬった大きなぬい目(40)
の部分のみほどこきます。

伸縮強化ぬい(ストレッチステッチ)



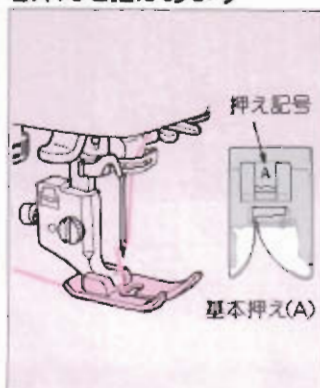
伸縮性のある布地や、刀が
カガってほつれやすい部分
などに使うとぬい目がしっ
かりします。

1 模様を選びます



模様選択キーを押すと模
様が選ばれて表示ランプ
がつかます。

2 押えを確かめます



模様選択キーに表示されてい
る記号の押えを使いま
す。

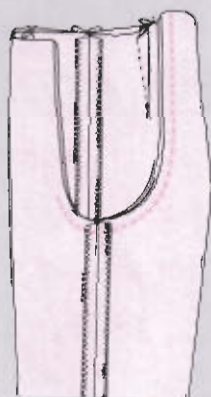
●袖つけ

後ろ袖や、袖下に力が
かかりほつれやすい
ところに使います。

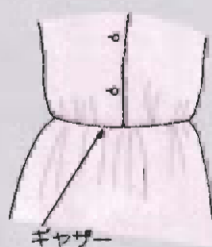
●パンツ類の股ぐり

二度ぬいするときに
便利です。

ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき
(ウエストはぎ、カフスつけ、ヨークつけなど) 使うと、ぬい目がしっ
かりとできあがります。



●ウエストはぎ



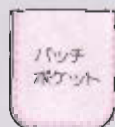
●カフスつけ

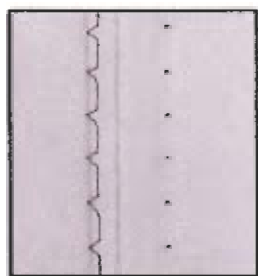


●ヨークつけ



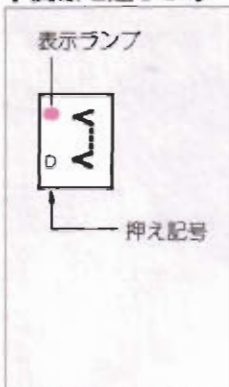
●袋ものにとってつけ

●よく使用する
ポケットつけ

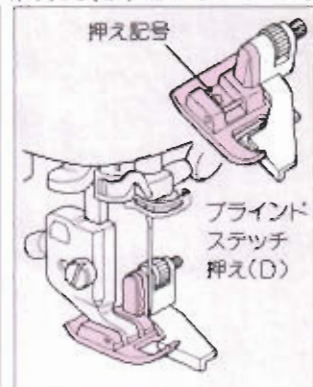


スカートやワンピースなどのすそのまっすりがかんたんにできます。

1 模様を選びます 2 押え(D)をセットします



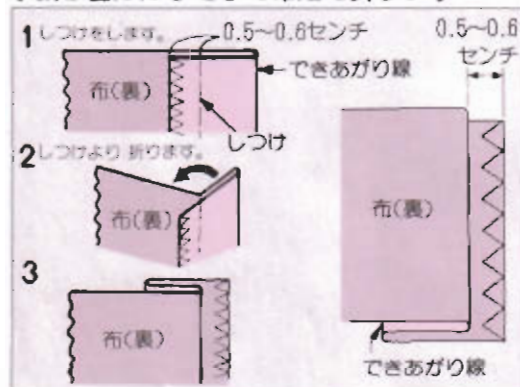
模様選択キーを押すと模様が表示されて表示ランプがつかます。



模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

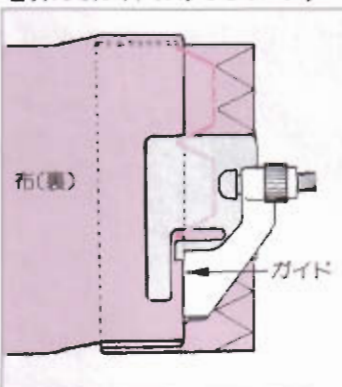
●普通地・厚地の場合(裁ち目かがりをする場合)

1 裁ち目かがりをして布地を折ります



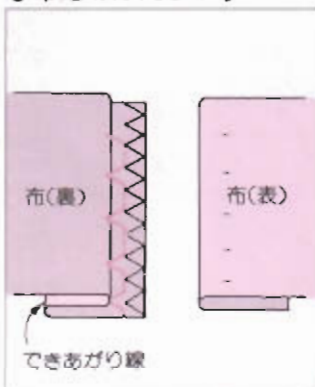
裁ち目かがりは8ページ参照。

2 押えのガイドにあててぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

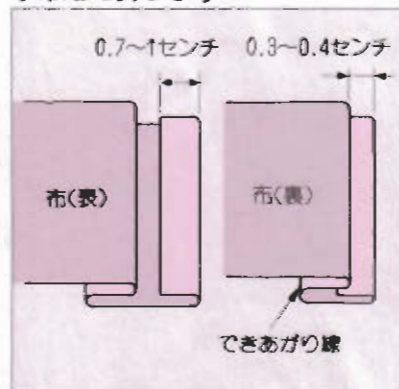
3 布地をかえします



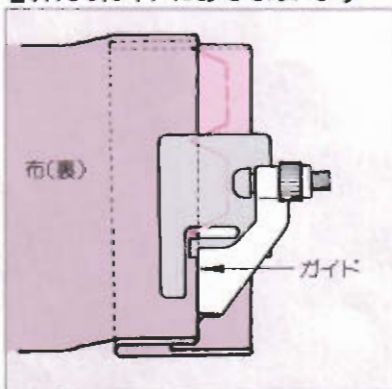
ぬい終わりましたら、布地を折りかえします。

●薄地の場合(裁ち目かがりをしな場合)

1 布地を折ります

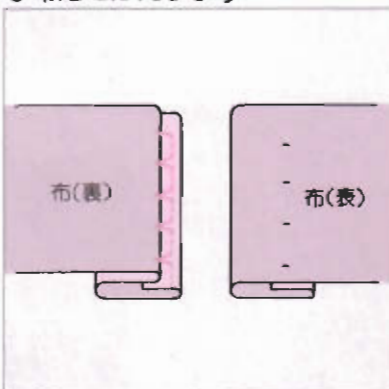


2 押えのガイドにあててぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

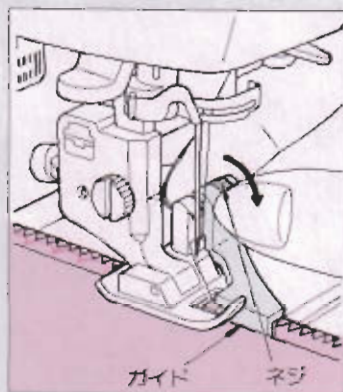
3 布地をかえします



ぬい終わりましたら布地を折りかえします。

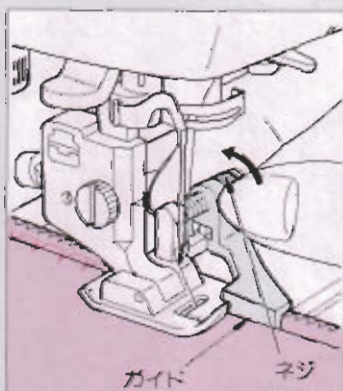
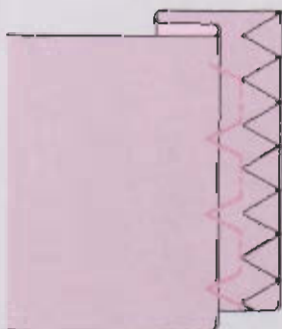
● ●
● プラインド ステッチ押えのガイド調節方法

■ 折り山にぬい目がかからない場合

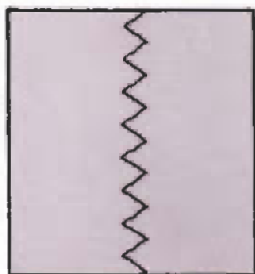


針が折り山にかかっていないとき、ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。

● ●
● 折り山にぬい目がかかりすぎた場合

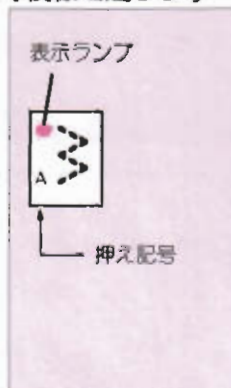


針が折り山にかかりすぎるとき、ネジを向こう側に回しますとガイドが左へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。



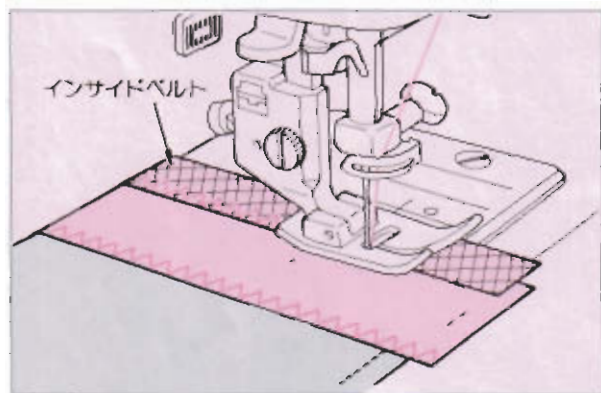
ゴムテープ、吊りテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目かがりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

1 模様を選びます 2 押えを確かめます



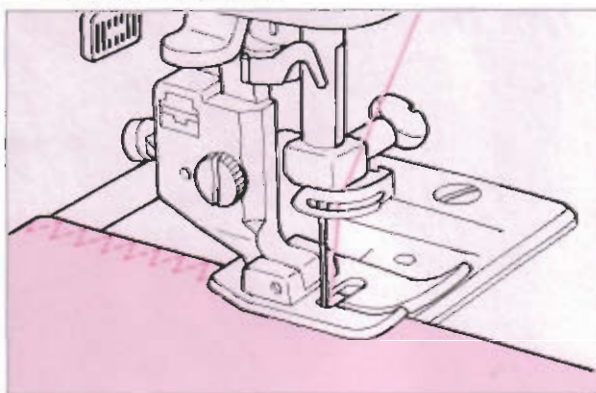
模様選択キーを押すと模様が表示ランプに点滅して表示されます。模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

● 三点ジグザグのインサイドベルトつけ



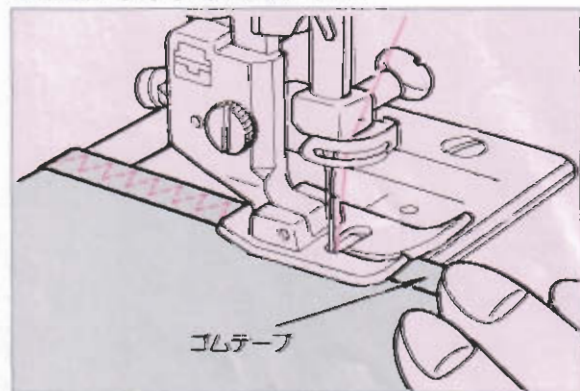
インサイドベルトをぬい止める場合、丈夫にできます。

● 三点ジグザグの裁ち目かがり



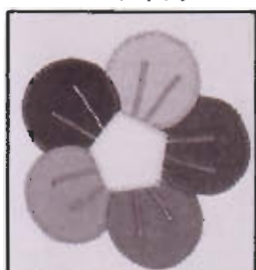
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端より縫糸の1~2本内側に針が落ちるようにぬいます。

● 三点ジグザグのゴムひもつけ



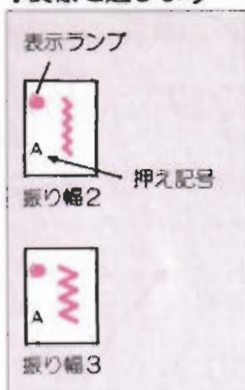
押え調節レバーを「よわい」にし、ゴムテープは前後にのばしながらぬいます。

アップリケ(1)



市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単にぬいつけられます。

1 模様を選びます



2種類のうち、お好みのジグザグ模様を選びます。

2 押えを確かめます

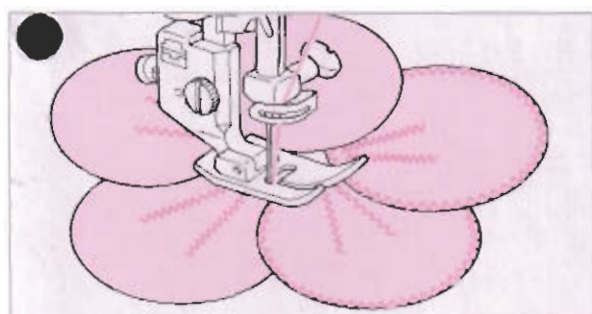


模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

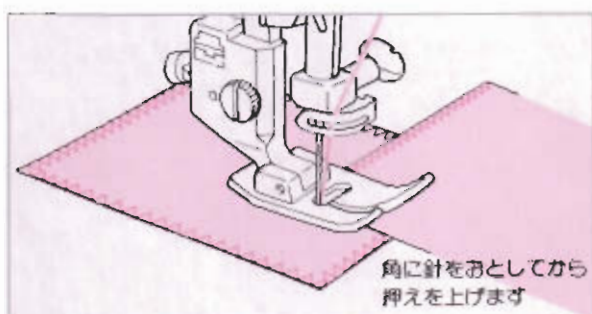
3 アップリケ布を止めます



アップリケ布を正確にのりづけ、またはしつけ止めして当て布をあてて、かるくアイロンで押えます。



アップリケの布端を裁ち目カガリと同じ要領で、ジグザグぬいでぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いものは振り幅2のジグザグ模様を選びます。



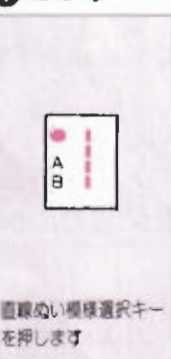
急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アップリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるようにします。

アップリケ(2)



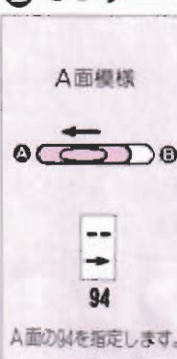
出来上がった袖やスポンの周りにワッペンをつける場合に使います。

① 直線ぬいをします



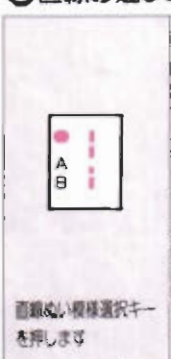
直線ぬい模様選択キーを押します

② 右送りぬいをします



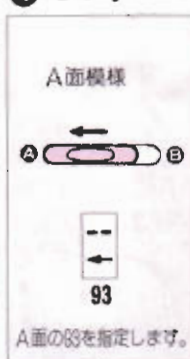
A面の94を指定します。

③ 直線の返しぬいをします

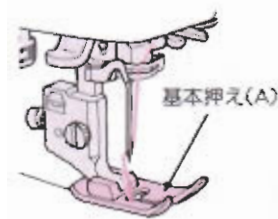


直線ぬい模様選択キーを押します

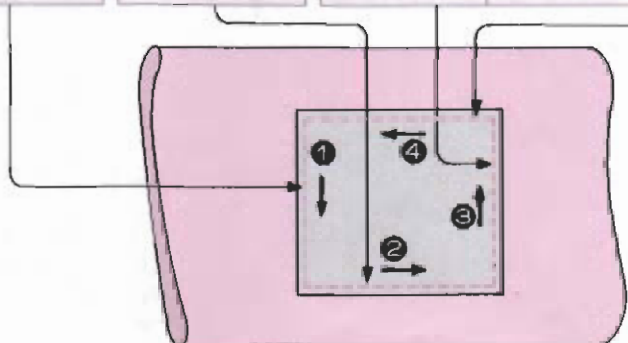
④ 左送りぬいをします



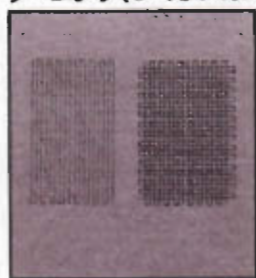
A面の93を指定します。



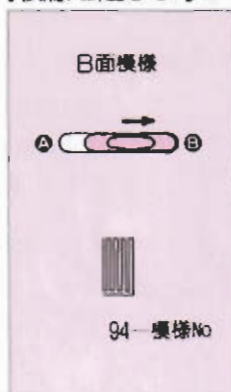
※押えを上げずにぬうことができます。



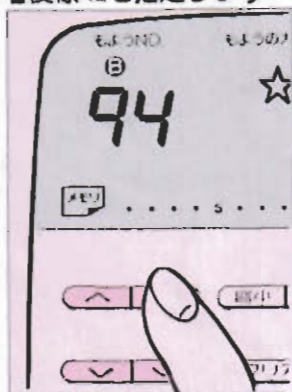
ダーニング(つくろいぬい)



1 模様を選びます



2 模様Noを指定します



B面の94を指定します。

3 模様押え(T)をセットします



#ぬい目の調整方法は基本編21ページをご参照ください。

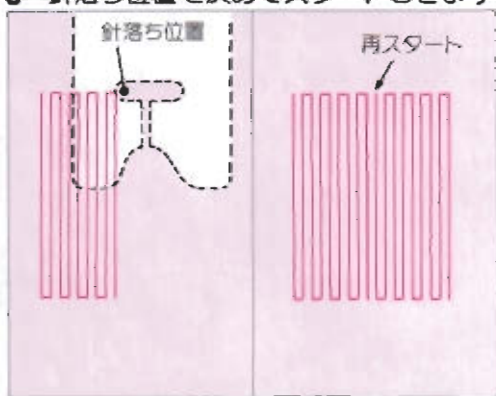
さらに幅広くぬう場合は

4 スタートさせます



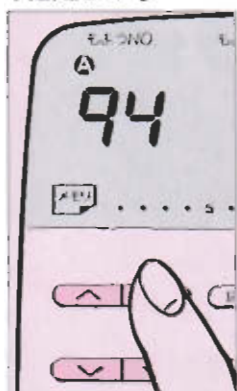
1つの模様をぬって止まります。

5 針落ち位置を決めてスタートさせます



横送りを使う場合 出来上がった袖やズボンのぬいをするときに使います。

A面模様 94 を 1 指定します

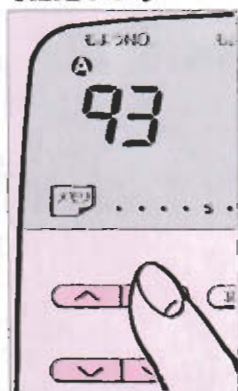


右送りを指定します

スタートさせて、任意の 2 ところで止めます

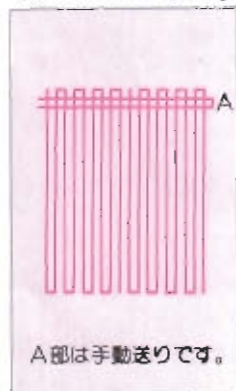


A面模様 93 を 3 指定します



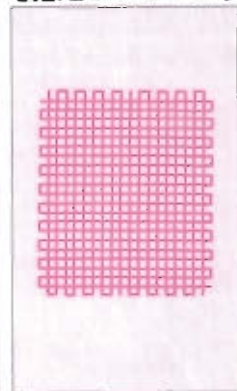
左送りを指定します

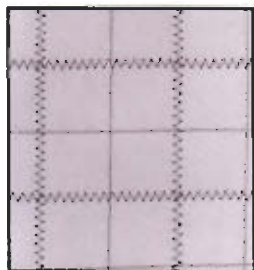
スタートさせて任意の 4 ところで止めます



A部は手動送りです。

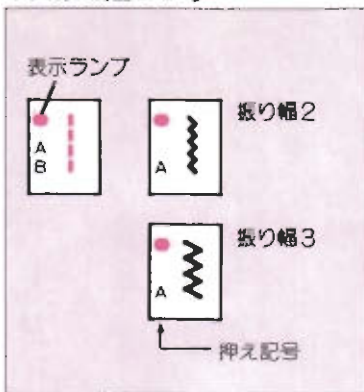
図1と3を交互に 5 指定してぬいます





2枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

1 模様を選びます



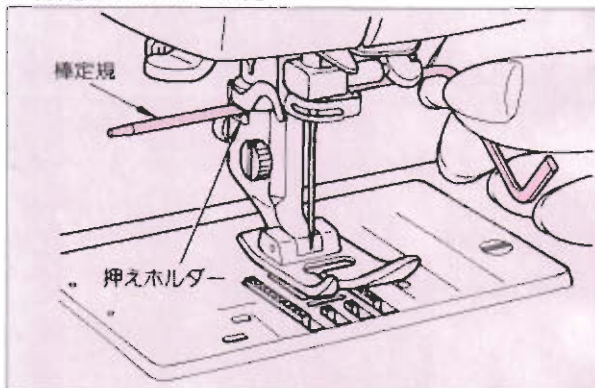
直線、ジグザグ模様などお好みの模様を選びます。

2 押えを確かめます



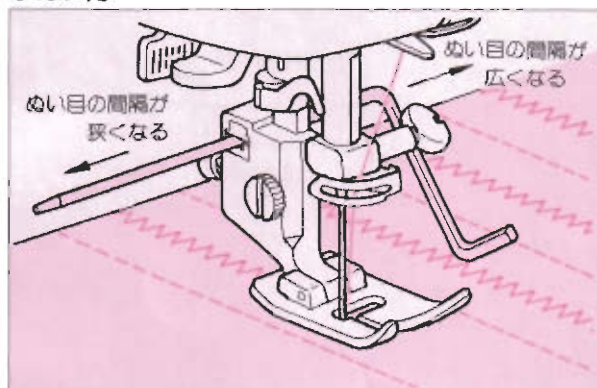
模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

● 棒定規のとりつけ方



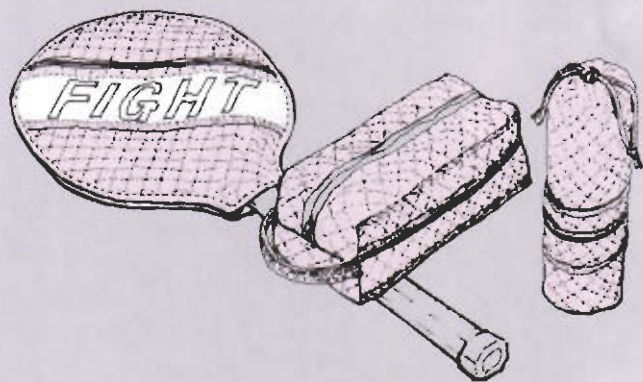
押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。

● ぬい方



棒定規の先でぬったぬい目をたどりながらぬいます。左右の間隔が自由に調節できます。

応用例

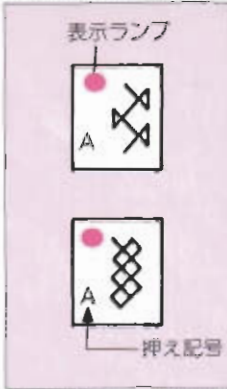


パッチワーク



模様ぬいを使っていろいろな布をはぎ合わせます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。

1 模様を選びます



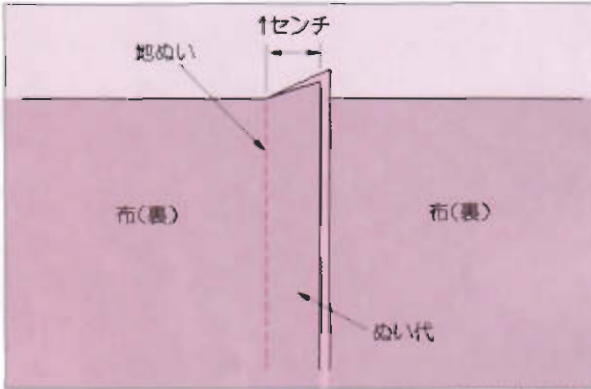
2 押えを確かめます



2種類のうち、お好みの基本押え(A)を使います。模様を選びます。

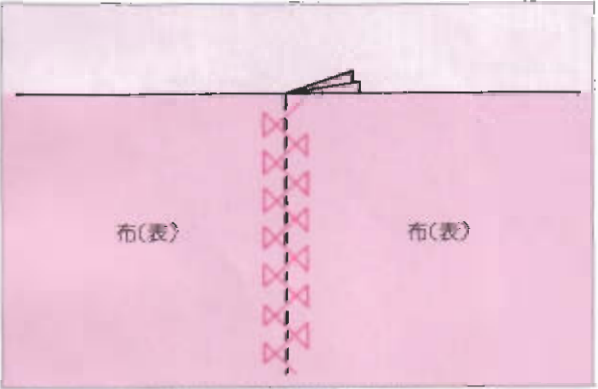
●重ねはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、地ぬいした後、ぬい代を片返しにします。

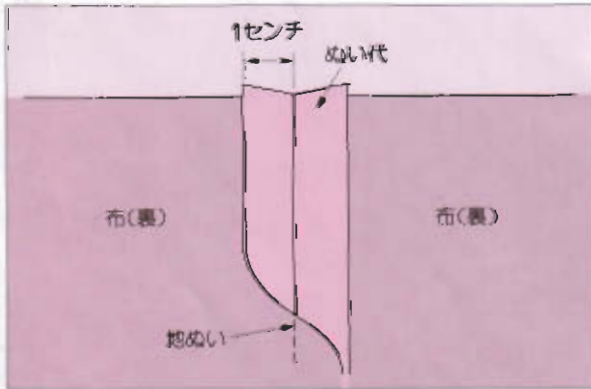
2



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

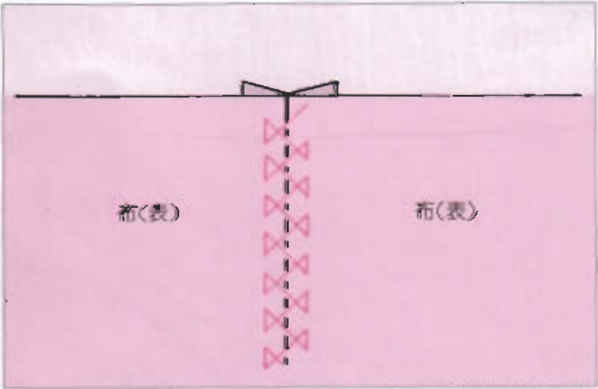
●割りはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、地ぬいした後、ぬい代をきれいに割ります。

2

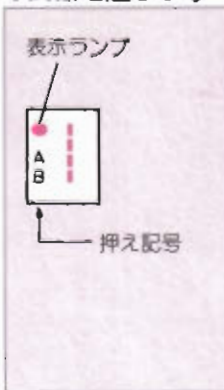


突き合わせになっている表布から両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



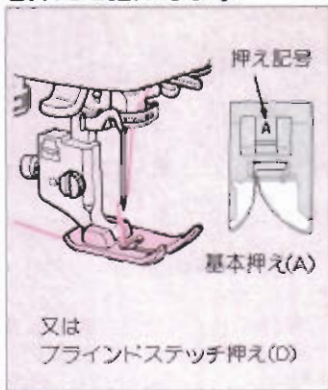
ブラウスの前身頃やエプロンの装飾などに利用します。

1 模様を選びます



電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

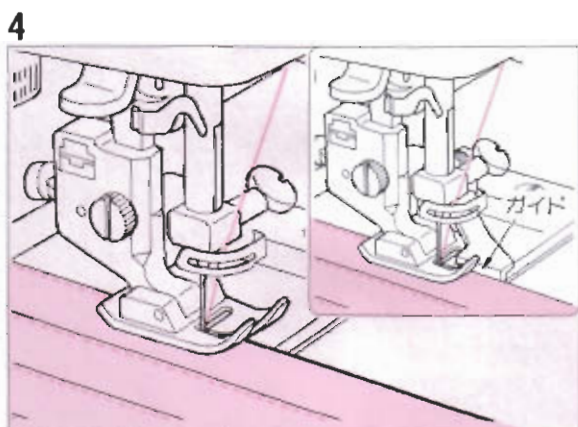
2 押えを確かめます



又は
ブラインドステッチ押え(D)を使います。



ピンタックの折り山をアイロンで折り整えます。



折り山を伸ばさないようにぬいます。
(ブラインドステッチ押えのガイドを利用するときれいにできます。)

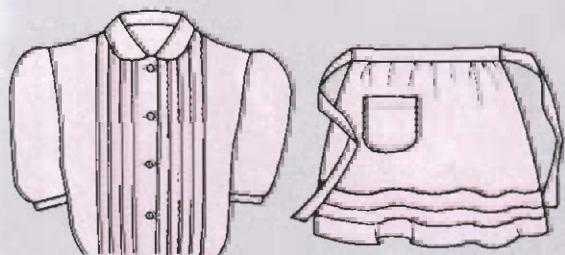


ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

応用例

●ブラウス

●エプロン



布づれ防止に……
上送りアタッチメント



直線ぬい(たて送り)だけにお使い下さい。
※左右送り直線・ジグザグ・大型模様ぬいには使わないでください。

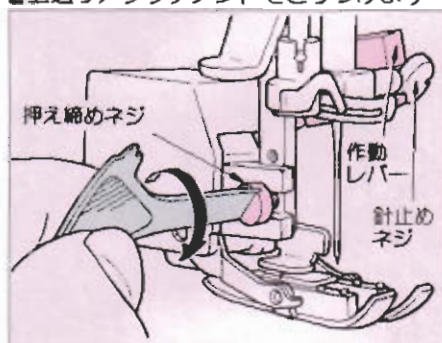
一般にミシンで送りにくい素材(ニット、ジャージー、キルティング、サテン、ビニールクロス、人工皮革、皮など)に使います。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします



押え棒をあげて押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

2 上送りアタッチメントをとりつけます



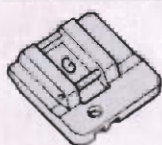
作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりとしめます。

- ※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。
- ※ニット、ジャージーなど伸縮性のある素材は押え調節レバーを、「よわい」にします。

ホームソーイングをさらに楽しくする——別売押え

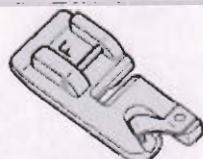
このミシンのお買い上げ店、または当社サービスセンターでお求めください。

●コンシール押え

コンシールファスナーつけに
便利です。

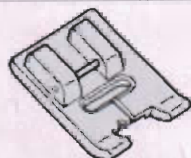
〈ぬい方は23ページ参照〉

●三つ巻き押え

シャツやブラウスの裾、フリルや
スカーフの端の始末などに使います。

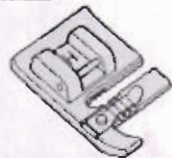
〈ぬい方は24ページ参照〉

●透明ボタン穴かがり押え

ぬい代の重なっている部分の
ボタン穴かがりにご利用ください。

〈ぬい方は25ページ参照〉

●ひもつけ押え

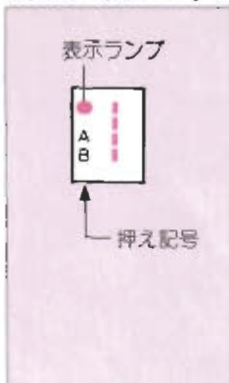
毛糸、ししゅう糸、穴糸などの
ひもつけに使います。子供服や
エプロン、インテリア小物に
応用します。

〈ぬい方は26ページ参照〉



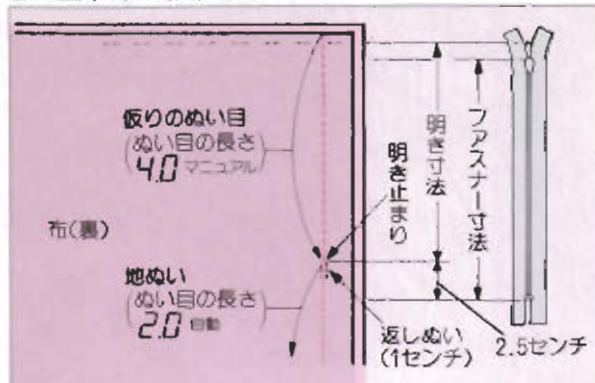
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないで、つき合わせの状態での明きの始末がでます。

1 模様を選びます



電源を入れると自動的に盲線が選ばれます。

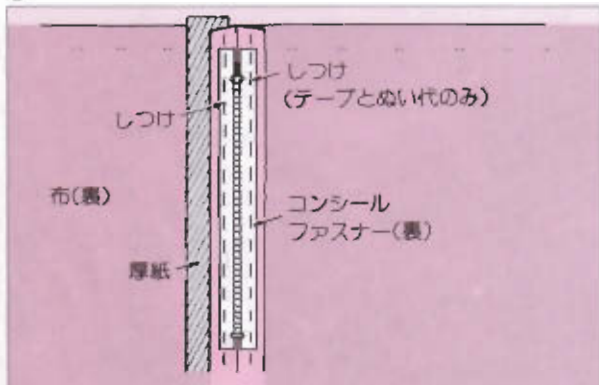
2 ファスナー明き寸法をたしかめ 基本押え(A)でぬいます



布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きなぬい目(4.0)でぬい、明き止まりからぬい目を(2.0)に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬい代をきちんとわります。

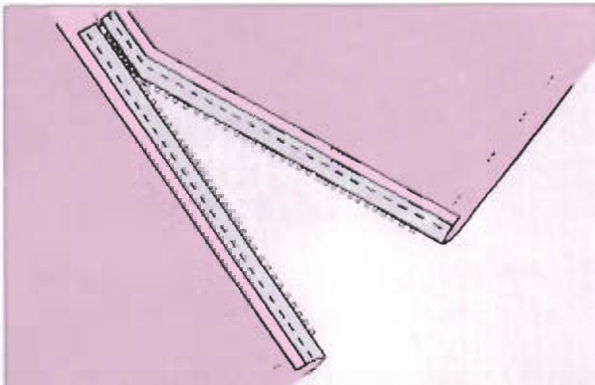
*コンシールファスナーの明き寸法=ファスナー寸法-2.5センチ

3



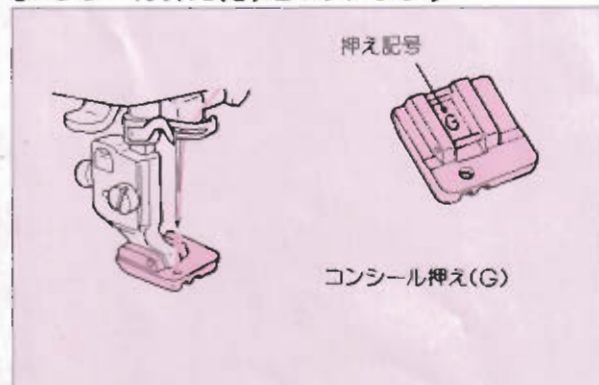
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬい代と表布の間に厚紙を入れ、ぬい代とファスナーテープを両側ともしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとりず。

4



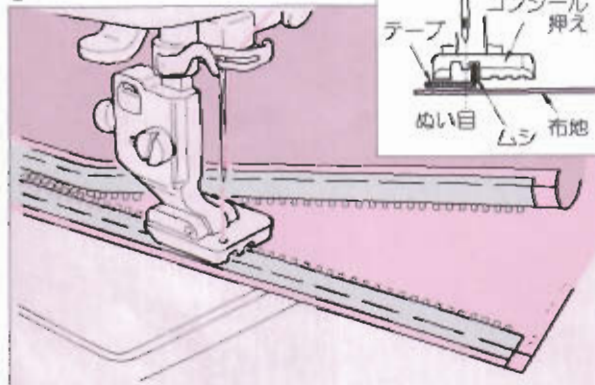
2図の明き止まりまでぬったぬい目をほどこき、ファスナーを開きます。

5 コンシール押え(G)をセットします



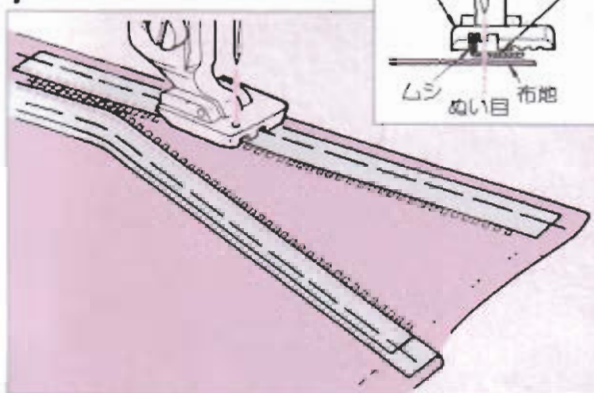
別売のコンシール押え(G)を使います。

6



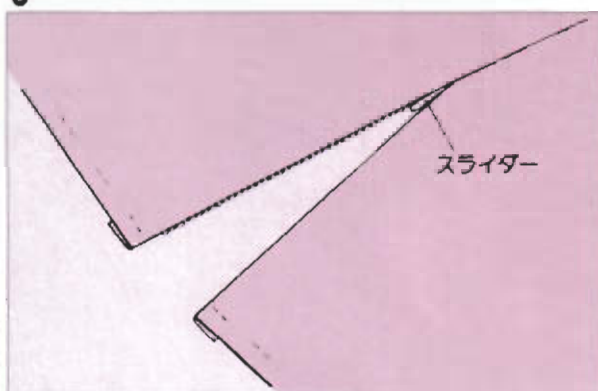
一方のぬい代をファスナーのミシを押えのみぞに合わせ、指でミシを立てるようにして、ミシのきわに明き止まりよりミシをかけます。

7



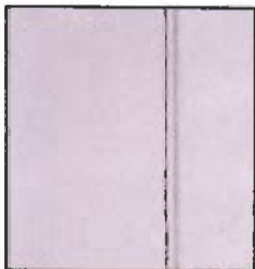
もう一方のぬい代も同じ方法でぬい合わせます。
(ファスナーテープの明き止まりから下の部分はぬい代にぬいつけられずに残ります。)

8



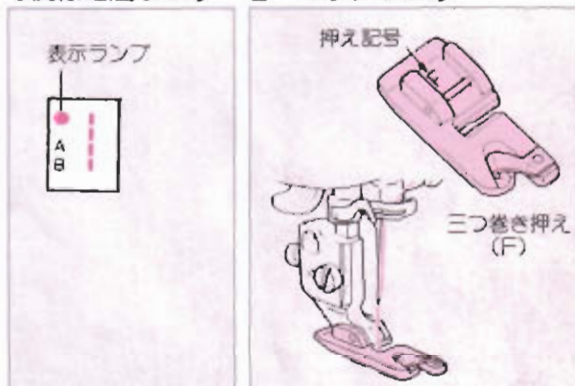
スライダーを中より出し、上に引きあげます。

三つ巻きぬい



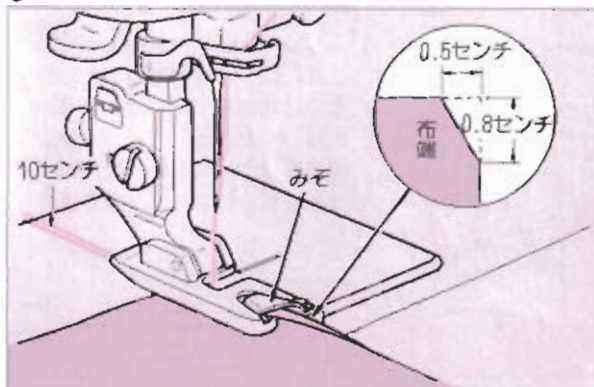
布端を三つ折りにしながらぬっていきながら、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

1 模様を選びます 2 三つ巻き押え(F)をセットします



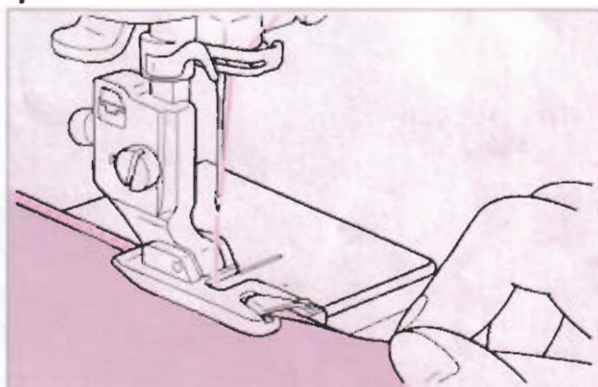
電源を入れると自動的に別売の三つ巻き押え(F)を使います。直線が選ばれます。

3



布地を巻きこみやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして押えをさげます。

4

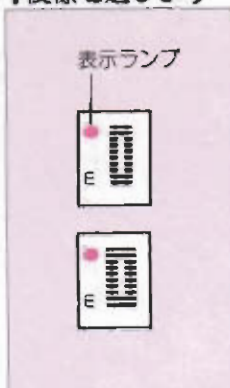


上下の糸端を左手で引き、手ではぎみ車を3~4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。



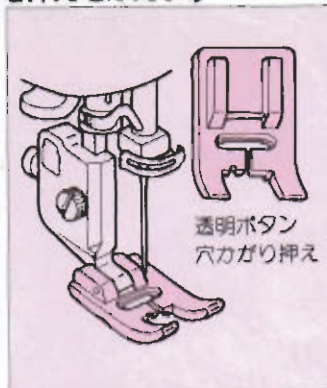
厚地の布を使った短冊明きや台襟の部分に穴かがりをする場合に用います。

1 模様を選びます



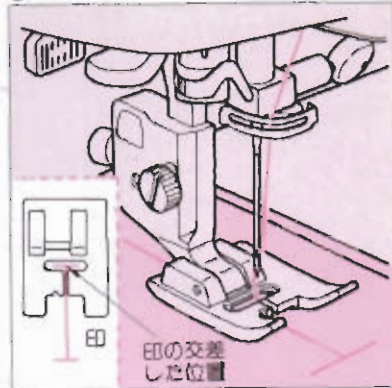
2種類のうち、目的に合った模様を選びます。

2 押えをかえます



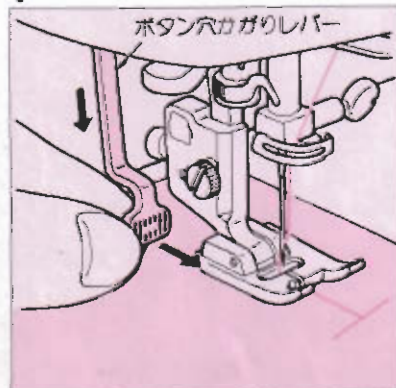
別売の透明ボタン穴かがり押えを使います。

3



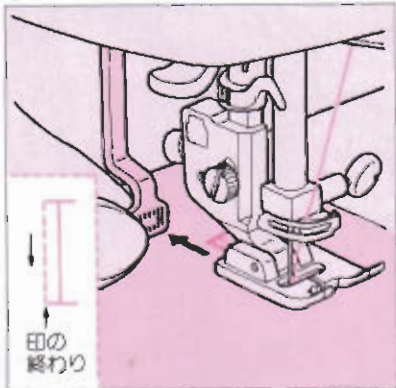
布地にボタン穴かがりの印をつけます。針を上げたまま印の交差した位置を押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。

4



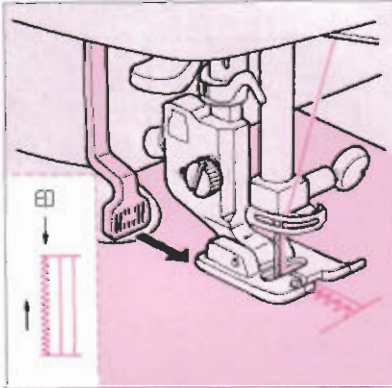
ボタン穴かがりレバーをさげて、軽く手前に引くと、しんせつモニターのランプが消えます。その状態でスタートボタンを押してぬい始めます。
●左側の直線ぬいがはじまります。

5



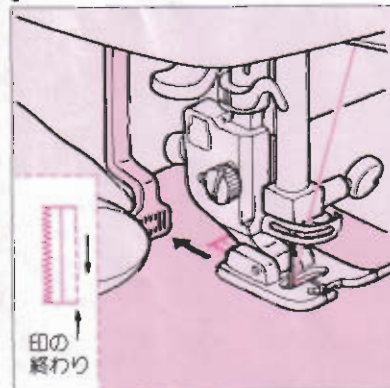
印の終わりに針がきたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押します。
●バックで左側のぬいがはじまります。

6



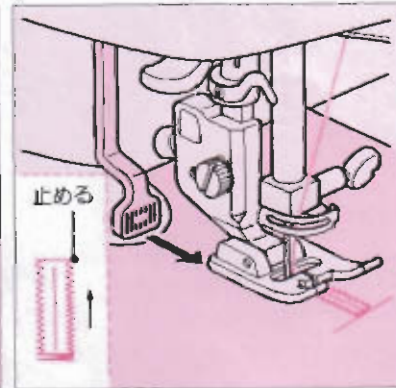
最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。
●右側の直線ぬいがはじまります。

7



印の終わりに針がきたとき、レバーを向こう側に押します。
●手前のカン止めをぬって、バックで右側のぬいがはじまります。

8

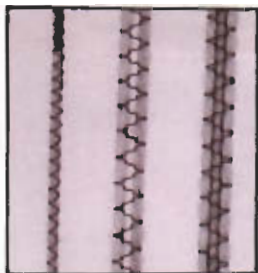


最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引くとカン止め、止めぬいをして止まります。

ご注意

1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されるとカン止めに切替わってしまいます。
2. 失敗したときは、ミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しますと最初からぬうことができます。

ひもつけ(コーティング)

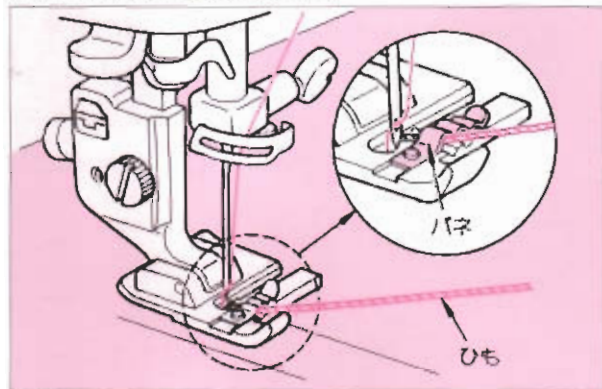


毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。

1本から3本のひもつけができます。

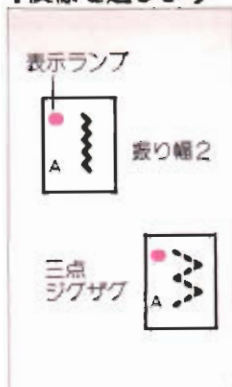
つけ

1本の場合は左側にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。

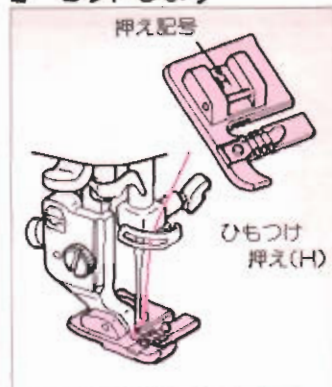


振り幅2のジグザグ模様でぬい止めます。ぬい始めとぬい終りに返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。ひもは布地の裏に引き出して結び切ります。

1 模様を選びます



2 ひもつけ押え(H)をセットします

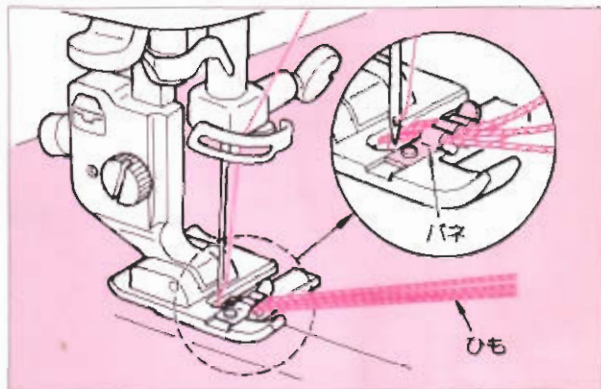


ひもつけ1本の場合は振 別売のひもつけ押えを使います。振り幅2のジグザグ模様を選びます。

2本、3本は三点ジグザグを選びます。

3本つけ

3本の場合は全部にひもを通し、ひもの先端は1本の場合と同じように押えの裏のみぞにはめて押えをさげます。



三点ジグザグの模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び切ります。

※2本つけの場合はひもを押えの両側にセットします。

JUKI

JUKI 株式会社

〒182 東京都調布市国領町8-2-1

☎ 03-480-5655